



# CanApple ニュース (107)

カーボン・エネルギーコントロール社会協議会 (CanApple)

事務局：民秋均

発行責任者：井上晴夫

編集責任者：八木政行

## 研究者の目標と夢

成蹊大学 坪村太郎

ごく最近、研究者はテーマや目標をどうやって設定すべきかということであらためて考える機会を持ちました。というのは、ある大学の見学をさせていただいたことがきっかけです。それは東洋大学の赤羽台キャンパスというところ。ここは3年前に開設されたキャンパスで、情報連携学部という学部が設置されています。同学部の学部長は坂村健先生で、この先生のお名前を聞かれたことがある方は多いでありましょう。坂村先生は東大の情報系で長く研究をされた方で、Tron という OS を作成し、どんなものにも小さなコンピュータを入れてそれらが相互に連携するようになるという、今で言うユビキタスコンピューティングの概念を1980年代に提唱された方です。私は全く存じ上げなかったのですが、彼はこのキャンパスに新しい学部を作ることを依頼され、3年がかりで構想を行い、建物も含めて全く新しい学部を作られたのでした。

建物は隈研吾氏の設計になる特徴的なひさしを持ったデザインで、とりたてて変わった建物ではありませんが、中の設備に大きな特徴があります。坂村先生は床材やイスなどを始め内部の様々なデザインにも関わられたとのこと。ありとあらゆるところにビデオプロジェクタが用意され、我々が会議室に案内される時は、廊下の壁に「○○会議室→」というように投影されています。そして照明、部屋の鍵、空調、学生さんのロッカー、エレベータなどあらゆるものがコンピュータを持ち、建物内のネットワークを通じてコントロールできるようになっています。デモとして見せていただいたのは電動車いすが自動的にエレベータまで行き、行き先階まで運ばれたあと、目的の部屋の前に行くと鍵が開き、照明がつくというような一連の流れでした。

さらに、それらをコントロールする API (Application Programming Interface) が学内で共有されているとのこと。従って学生さんでもたとえばタブレット上で簡単なプログラムを組むことで部屋の照明を明るくするとか、鍵を開けるとかの操作をすることができます。たとえばある学生さんはスマホを使って声で命令することで自分のロッカーを開けるアプリを作ったとのことでした。

これらの仕掛けが未来的であるのみならず情報系の学生さんの教育に大いに役立っているということは私にとって大きな驚きであったわけですが、とにかく強く印象に残ったのはそれらのシステムを含む学部を建物もあわせて作り上げた坂村先生の強いご意志です。彼は何十年も前の、世界でも最も早い時代にユビキタス社会の概念を提唱されたわけですが、実際にそれを教育の場において具現化させたのでした。既存のものを(教員も含めて)全く使わず、0から創り上げたので余計なしぼりは少なかったのかもしれませんが、相当なご苦労があったことは想像に難くありません。今後同学部から優秀な学生さんが育っていくかどうかはこれからの課題かもしれませんが、坂村先生のはっきりした目標があったからこそこのようなものができたのであろうと感服した次第です。

さて、今回見せていただいたのは情報系の学部ですが、この坂村先生の学部策定の過程は、どんな分野の研究や仕事にも当てはめることができると、はたと思い当たったわけですね。やはり何事も成し遂げるにははっきりした(しかも夢のある)目標とそれに向かっていく強い意志が必要だということです。うまく行くか気にしてもしょうがありません。是非皆さま若い方に限らず夢を持って邁進していただきたいと思います。これは自分に対する言葉でもあります。